

認定NPO法人かものはしプロジェクト  
2019年度年次報告書

# 2019 2020

Kamonohashi-project Annual Report

希望と絶望から  
見えてきた  
私たちが  
目指す世界



子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人かものはしプロジェクト



活動を始めて18年、  
明るい希望を見出した  
矢先の絶望。  
でも、この流れを  
絶対に止めたくない！

### カンボジアユート

「どうしてこんなにひどいことが起きるのか」。カンボジアで、売春宿から保護された6歳の女の子に出会ったとき、あまりにも年齢の低い子どもが被害にあっていることを知り、怒りに打ち震えました。

2002年に「子どもが売られる問題」がもつとも深刻だと言われていたカンボジアで活動を開始し、「かものはしプロジェクト」を立ち上げてから18年。なんとしてもこの問題を解決したいと強く思った大学生の



Written by  
かものはしプロジェクト共同創業者  
**村田 早耶香**  
Sayaka Murata

共同創業者。大学在学中に子どもが売られる問題を知り、東南アジアでの深刻な現状を見て、20歳のときに創業メンバーである本木・青木とかものはしプロジェクトを創業。以来、子どもが売られる問題の解決のために活動を続けている。

ときから、今でもこの思いは変わら  
ず私を突き動かしています。

「子どもが売られない世界をつくる」を、そう思って、カンボジアで活動を  
していたときは無我夢中で毎日を  
走り抜けました。何もない中から事  
務所を作り、たくさんさんの失敗を経  
験しながら、農村にコミュニティファ  
クトリーを設立し、警察支援も始ま  
りました。さまざまな人たちの努力  
のおかげで、カンボジアは子どもが  
売られる問題がなくなると言え  
る状態になりました。

### インドにて

カンボジアの被害状況が改善さ  
れたため、状況が深刻だったインド  
で活動を広げていきました。インド  
では、自分の意思に反して強制的に  
働かされていたとしても、売春宿で  
働いていたことで、村に戻った被害  
者がひどい差別を受けていました。  
復学できない、仕事に就けない、結  
婚が不利になる、村で家族も含めて  
のけ者にされる。「まるで何か悪い  
ことをした人であるかのように扱  
われた」と言っている元被害者の女

性もいました。

インドでは、「サバイバー（人身売  
買被害者）に寄り添いともに声をあ  
げる支援」と、「社会の仕組みを変  
える支援」を行っています。被害に  
あい、なんとか助けられて生き延び  
たサバイバーに、心の回復支援、生活  
を取り戻すための支援、裁判支援  
なども行っています。さらに、支援  
を受けたサバイバーが、グループをつ  
くり、社会や政府に対する働きか  
けを行うリーダーとなりました。  
現在158人のリーダーが活躍し  
ています。

### 私たちが目指している世界

これまで多くのNGOが支援を  
する中で、人身売買のサバイバーは、  
あくまでも「受益者」で、支援を受け  
る側でした。受益者であるサバイバー  
の声が聴かれることは少なく、支援  
は一方的に行われることが多い状況  
でした。サバイバーのリーダーシップ  
支援を行い、サバイバーリーダーの声  
を聴く機会を作っていたところ、  
「本当は今すぐ家族のもとに帰りたい  
かったのに、いつまで保護施設にいな



For a world without child sex trafficking and sexual exploitation

# 「目指しているのは 支援をする、されるという 関係を超えた世界」

けばいけないのか、いつ私が家族のもとに帰れるのが決まるのか何の説明もなかった」と怒りをあらわにするサバイバーや、よかれと思って行っていたNGOの支援が、実はサバイバーの声を抑圧していたと指摘されることもありました。

障がい者の共通の思いを表した、「私たち抜きに、私たちのことを決めないで」という言葉があります。この言葉はすべての支援活動に共通する思いだと思います。また、サバイバーリーダーが人身売買の被害者に寄り添う活動をすることで本音を言いやすくなったり、「私もがんばればこんな風に輝くリーダーになれるんだ」と彼女たちのロールモデルになっていました。また、サバイバーリーダーの言葉は多くの人の心を動かすし、ともに活動するインドのNGOだけではなく、インドの政治家やメディアを大きく動かしています。

私は当事者リーダーの活躍をみる中で、支援のあり方というものを改めて考えていました。数値として人身売買被害者が減ったとしても、当事者にとって良いと思える支援でな

カンボジア、インドでの学びを、自国の子どもたちのために活かすときなどではないかと、関係者の皆さまとの対話を続け、ようやく昨年度の総会決議で、「調査と実験的な活動」への承認をいただき、日本での活動の準備が始まりました。そして、今年、いよいよ日本での活動を本格的に始める準備が整いました。日本の中でも、支援を受ける側の子ども・若者の声が、関係する人たちに届き、その声が社会に反映されることで、子ども・若者にとってより良い社会になることを目指しています。

## ようやく軌道にのってきた 矢先の絶望

インドの活動が前に進み、日本での活動も「ようやく始められる」と意気込んでいた矢先の2020年3月25日、新型コロナウイルス蔓延による影響で、インドは全土封鎖されました。一緒に活動してきたサバイバーリーダーたちの多くが収入を断たれ、食べることもできない状況に追い込まれました。「2日に一度しか食事を取れない」という声が多数寄せられました。そのため、命を繋ぐための

ければ押し付けになってしまいます。私たちが目指しているのは、当事者の声も、関わっている人の声も聴かれ、対等で尊厳が守られ、支援をする、されるという関係を超えた世界です。

## ずっと気になっていた日本

インドでの活動が進んでいる一方で、数年前からずっと気になっていたことがありました。それは、日本の子ども・若者を取り巻く状況です。18年以上活動をしている中で、全国さまざまな地域において年間100回を超える講演を行い、本当たたくさんの方々と出会いました。その中には、ご自身が受けた虐待の経験を語ってくれた子ども・若者も少なくはありませんでした。長年海外で子ども・若者支援をしてきたけれど、足元で起きていることに対して何もできない歯がゆさを感じました。「親から殴られるのを我慢してるよりも、凍えるけれど外で寝ている方が良かった」という言葉に衝撃を受けました。日本で起きている子ども・若者への不条理な状況を変えたいと強く思いながらも、何もできないことが悔しく、幾度も涙を流しました。

緊急支援を、サバイバーリーダーたちに対して行いました。

「これでひとまず皆が安心できる」と思った矢先、サバイバーリーダーたちが暮らしている西ベンガル州を、大型サイクロン「アンファン」が襲いました。サイクロンが通り過ぎた後、通信が途絶えた彼女たちの家をインドのパートナー団体のスタッフが訪ねると、無残にもべしゃんに潰れた家が残っていました。食べることも困っていた人たちをさらに自然災害が襲った。この彼女たちの状況を考えると頭が真っ白になりました。

まだインドの通信状況が悪く、連絡が取りにくい状況が続いています。(2020年5月27日現在)ですが、まずは打撃を受けた西ベンガル州のサバイバーリーダーたちが生活をとり戻し、再び社会を変える活動ができるよう、せつかく見えてきた「当事者の声聴かれ、その声を受けとめられる世界」が消えてしまわないよう、この流れを消さないために、前を向いて歩み続けます。そのために、ぜひこれからも力をお貸し下さい。

2019年度のインド事業部

Kamonohashi in

# INDIA

2019-2020

## 何をどう「ゆるす」のか、 何をどう「癒す」のか。

インド事業部ディレクター 清水 友美 Tomomi Shimizu

朝、家の近くにある大きな公園で、木にもたれかかりながらこの8年を思い返していた。私がかものはしと出会ってから丸8年。大きな木を見あげ、土からせり出す根を大量の蟻が行き来しているのを見ていたら、気付いたら涙が止まらなかつた。

2020年3月末からインドで全土封鎖が始まり、日雇い労働者は仕事を失い、収入を絶たれた。私たちが一緒に活動するサバイバーリーダーたちもその影響を免れず、本当に餓死者が出るのではないかと私は不安になり、緊急調査をして現金支給を決めた。5月に入って今度は大型サイクロンが西ベンガル州を襲い、特に南24区に壊滅的なダメージを与えた。かもインドチームの多くも被災し、ライフライン復旧までに相当の時間を要した。私は、遠い東京でもできず、ただただ不安な毎日を送ってしまった。ダブル災害で連絡が取れなくなったサバイバーリーダーたちのあまりの多さに、今度こそ死者がいるかもしれないと覚悟を決めつつ、普段はレシ

リエンス(回復力)の高いパートナーたちが今回ばかりは無力感に打ちひしがれているのを見て、私はさらに落ち込んだ。その合間に、生きていくのがしんどくなつたと連絡をくれた人たちがいて、そのとき持ち合わせていた自分のすべてのエネルギーで彼女たちと向き合った。

それでも人は強いもので、皆で支え合い、たくさん苦労はあるけれど、今のところ一人も死者を出さず、なんとか前に歩を進めてきた。だから今、切迫した大きな悲しみがあるわけではないが、止まらない涙をみたときに、8年かけて、意識的にも無意識的にも多くの人の悲しみや怒り、やるせなさを自分の中に吸収してきた、その浄化作用としての涙なのだろうなと思った。

この8年を振り返るとき、なぜ私がかものはしで人身売買の問題に関わっているのか、私の人生の中でどんな意味があるのか、インドの人身売買問題にとって、私に関わってきたことにもし意

味があるのだとすれば、どんな意味があるのか、ということが中心にくる。

### 「人身売買問題」を取り扱う

私はこれまでの21年のキャリアの中で、サラワク先住民族の土地権利回復運動や、アジアの都市化問題、スマトラ沖大地震後のアチエでの復興支援、スリランカの内戦復興支援に関わってきた。多くの社会課題がある中で、割と「闘い」がテーマの分野で働いてきたと思う。でも、この反人身売買セクターは、私がこれまで見てきたどの分野とも大きく異なる。こゝは、圧倒的に多くの、「痛み」「哀しみ」「怒り」が渦巻いている。人が人を売るという行為、他者に自己を侵害されるという体験、信じていた人に裏切られるという経験。あたかも人類のそういう悲しみがぎゅつと凝縮しているかのような、濃度の高い悲しみがこのセクターには存在している。

反人身売買セクターでは横の連携がきわめて弱い。それは、あて、新しいパラダイムの方向に、皆でたどり着く準備をしてきたのだなと思う。

信じられない数の人たちが新型コロナウイルスで命を落とし、全土封鎖・外出禁止令により経済的、社会的に脆弱な層にある人たちが抱える不安は大きくなる一方だ。健康リスク、社会不安が高まる中で、どうやって私たちは人間の営みを続けていくのか、「元に戻る」という選択肢をなくした、大きな岐路に人類全体で直面している。インドは何十年に一度の規模のサイクロンがこの2ヶ月で2つも発生し、北東部では大洪水が起きた。アメリカで始まった黒人差別撤廃を求める声は、今や世界各国でデモを引き起こしている。「今、何が起きようとしているのだろう」と問うてみると、「これまでのやり方ではないやり方はいきましょ」と地球が全力をあげて言っているような気がしてならない。もしそうだとするならば、反人身売買セクターは、これまでのやり方ではない、どんな可能性があるのだろうか。

まりにもこの問題が大きく、痛みが強すぎて、自分にいったい何ができるのだろうかという無力感を、どんな立場であれ関わっている多くの人が感じ、結果それが他者と効果的に、前向きに関わることを阻んでいるのではないかと思っている。

私もまた、たくさんの痛みと悲しみをもるに受けとってきたのだなということ、木を見ながら、蟻を見ながら思った。助けられなかつた命、昔背負った傷を今もなお生きている人たち、私にとつてとても大切な人たち。その人たちの笑顔を奪った violence。

### パラダイムシフト

昔の私だと、「ゆるせない。だからこそ、加害者を逮捕すること。この問題をなくすんだ！」と考え、少なくとも6年間はそうやって走ってきた。しかし、このところのインド事業は「怒りを転化してそれを起爆剤として解決を見出す」というよりも、起きてしまったことは起きてしまったこととし

今までやってきたことは大切だし間違っていないかった。それは否定されることはない。でも、ヒューマニティ(※1)として前に進むときに、加害者を訴求し、彼らを有罪判決にすることで、抑止力をあげていくというパラダイムはもはや通用しない、ということに私たちは気づいている。加害者の痛みとそうせざるを得なかつた状況に本質的に手を入れるとするならば、何が悼まれる必要があり、誰がどうその「悼む」プロセスに参加することで、全員で前に進んでいくことができるのか、ということを考える局面にきたと思う。その意味において、私たちは新しい入口に立っている。

### 自分自身の変化

今回の大型サイクロンで、トラフィッカー(女性たちをだまして売春宿に売る者)たちの家も流された。全土封鎖で人の動きが止まったことにより、彼らのビジネスはあがったりだ。そこにサイクロンでの被災が追い打ちをかけ、人身売買の新しいリクルーティングが始

まっついている。自分を相手取って裁判を起こしたサバイバーリーダーたちへの脅迫・嫌がらせもひどくなっている。中学生の女の子が集団レイプされ、子どもの虐待や幼児婚の事例が増えている。その状況の中で、「加害者にも痛みや背景がありますよね」なんて、とんでもないキレイごとだと思う。自分が人に売られたという経験を持たない以上、加害者を前にしたときの彼女たちの恐怖や痛みは計り知れない。だから、加害者への関わりを始めて、ラダタイムソフトを起こそうよ、というのは理想論にすぎず、その一步を踏み出すのは無理だと強く思っていた。

昨年度の調査の一つに、トラフィック調査がある。かものはしがこれまで集めてきたデータを元に、429人のトラフィックの基礎情報(男女比、被害者との関係性等)と彼らを取り巻く捜査・裁判データを分析し、その結果を私リーダーたちに説明した。それを見たサバイバーリーダーたちの凍り付いた表情、あの場の張り詰めた

た空気を、私はずっと忘れられない。この10年で有罪判決になった加害者は429人中3人しかおらず、10人は無罪、68人は保釈金を払って保釈され、うち26人は行方がわかっていない。10年たつても判決までたどり着いたのはたったの3%。「429人のトラフィック」という言葉を聞いたときの彼女たちの恐怖感。そしてこのデータは、今彼女たちが勇気を出して始めた裁判が10年後も継続している可能性が高いことを示唆している。彼女たちは、このデータを使って何かの行動につなげたいと言っただけで、3ヶ月たつても、6ヶ月たつても、具体的な行動にほとんど結びついていない。これは、彼女たちの強い恐怖心を表していると思ってしまう。

一昨年、私たちが2013年から応援していたサバイバーが殺されたとき、私はあまりのショックと自分たちがやってきたことの無力さ、その理不尽さに胸が押しつぶされた。1年くらいは、彼女を惨殺した旦那さんを理解することはできないと思っただけ、彼がゆるぎを失ったら、彼女は浮かばれない

と頑なに信じていた。「Forgiveness」という単語が出てくるたびに、私の胸はえぐられ、涙しか出てこなかった。時間がたち、たくさん人の支えで、私は「ゆるすとは一体何か?」と思えるくらいには回復した。そして「なぜ彼女は殺されなくてはならなかったのか」というところで思考が立ち止まると、「ゆるす」「癒す」という統合された世界にシフトすることが難しくなるということに気づいた。

### 「ゆるす」とは、「癒す」とは

2020年5月末、日本で緊急事態宣言が解除になり子どもたちの学校が再開される、というときに、体が動かなくなっていた。いつもは気力でなんとか動かせるのに、今回はどうにもダメで、おとなしくベッドで過ごすことにした。そのとき、インド事業のアドバイザーとして関わってくださっている山梨県立大学の西澤哲先生が、目黒区で起きた児童虐待死事件の、加害者である父親の心理鑑定をしたという記事をたまたま目にした。それを見ていた

ら、すっと腑に落ちた。5歳の子どもを死に追いやったそのこと自体は許されることではない。でもそこにいたるまでに、彼にも「子どもと幸せな良い家庭を築きたい」という夢があった。でも、子どもだから当然親の言うことを聞いてはくれず、どうして自分の言うことだけ聞いてくれないのかという無力感や被害者感が強くなっていく。それが増幅されると、力という暴力につながり、虐待はエスカレートしていく。これは、日常的に私たちにも起きていないだろうか。小さな息子が泣きじやくるとき、私は一生懸命彼の涙をぬぐい、最善を尽くす。それでも彼が泣き止まずさらに泣き声を大きくし、周りの人がじろじろ見始めると、私だって泣きたくなる。もういい加減にしてよ、なんて分かってくれないのよ、と思ったことは一度や二度ではない。自分の中の被害者感を補う手段として「力」を使うことが、私にも本当になかったと言えらるだろうか?あの児童虐待死の、最後の事象だけを切り取って「あの人がいけなかった」と責めるこ

## 私たちは 「Healer(癒す人)」で ありたいという 夢を持っている。

とにどれだけの意味があるのだろうか、と、西澤先生の記事を読みながら思った。今までの私たちの学びのなかで、トラフィックも元被害者であることが多いことがわかっていく。そうだとすると、その被害者としての痛みが何か関係して、人を売ることで、自分の持っている力を再認識をする行為が人身売買の裏側にあるのではないか。

かものはしを支え、かものはしとして、私たちがずっと歩んできてくれたループやウマ(※2)には、大きな痛みがある。現場で生じることの重さや、苦しいながらも前に進んできた彼らのレジリエンス、美しさがある。そんな彼らと、事業のビジョンを紡いでいく中で、自分たちのアイデンティティは何だろうか?という話をする。私たちは「Healer(癒す人)」であ

りたいという夢を持っている。5年後、かものはしがインドで事業を完了し、インドから撤退する、そのときに、私たちのコレクティブアイデンティティ(※3)が「Healer」だとするならば、担うべき役割は何か?撤退は、支援を受ける側にとつて大きな痛みを伴うプロセスだ。どれだけ持続可能な事業を作っても、どんなに円満な別れ方でも、大なり小なりそこには痛みが伴う。かものはしから受け取る月次給付金が命綱のサバイバーリーダーからすればそれは尚更だ。3人でその「場所」からシステムに関わる時、視点が変わり、事業の組み立て方が変わる。システムにある怒りや痛みや苦しみを増幅させるといふ役割から、今ここに欠けているものは何だろうか、聞いてほしいと渴望している声はどんなものだろうかというところに好奇心を向け、その声をフアンリテートしていく役割へ。自分の中に同質の痛みがあるとき、他者の悲しみに自己が共鳴し動けなくなる。そこを突破して、パラダイムを動かすためには、自分たちがどうありたいのか、何のア

イデンティティからそのシステムに関わるのが大切な気がしている。そのリーダーシップを私たちが発揮するとき、それは人に「伝染」し、その人たちのエネルギーになつていくところを2019年はたくさん見た。何をどうゆるすのか、何をどう癒すのか。それはまだ私たちにも100%わかっていることではない。でも、次の5年、自分たちが歩みを進めたい方向だけは明確である。その先に、これまでとは違うやり方で的人身売買問題の解決が、私たちが作りたい社会の姿があるような気がする。来年のこの時期までにどんな一年が過ぎていくのか、今から楽しみだ。



Written by  
**清水 友美**  
Tomomi Shimizu

インド事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士過程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

サバイバーのリーダーシップ育成プログラム

# Survivors Leadership Programme

Partnership with



Supported by



期間

2018年2月～2020年7月

事業費

1億980万円(1ドル=110円)

2019年度支出実績

5700万円



ILFATのリーダーとしてたちあがったサバイバーリーダーたち。

2018年に開始したサバイバーリーダーシッププログラムは、人身売買の被害者が、社会を変えるリーダーへと成長することをサポートする事業です。2019年は、西ベンガル州北24区に新しいサバイバーグループ、Bijoyiniが誕生し、計12グループ、158人のリーダーたちが力強く活動した一年でした。中でも、第一のハイライトは、インド10州の11のサバイバーグループのリーダーたちから成り立つ、インド反人身売買リーダー連盟(ILFAT: Indian Leadership Forum Against Trafficking)の立ち上げを、同事業で活躍しているリーダーたちが行ったことです。ILFATは、2019年11月にデリーにて、中央官庁職員や国会議員、メディアを対象に会議を開催し、人身売買を取り締まる法律や制度設計において、当事者の声を反映させる重要性について声を上げました。現在、労働搾取・性的搾取などさまざまな人身売買被害にあった、2,500人以上のサバイバーリーダーたちが同連盟に加盟し、活動を行っています。第二のハイライトは、西ベンガル州とアンドラプラデシュ州で、71人のサバイバーリーダーたちが、388人の子どもたちを対象に行った、子どもの脆弱性調査です。人身売買の被害にあう可能性が高い脆弱性とはどんなものがあるか、かものはしやパートナー団体が提案したところ、リーダーたちは、はるかに精度の高い指標を設定し、自分の村に住む子どもたちを訪問、聞き取り調査を行いました。本来、村レベルの子ども保護委員会が脆弱性の高い子どもを守る義務があるため、リーダーたちは調査結果をまとめ、同委員会に提出しました。保護委員会が設置されていない、もしくは、機能していない村では県知事にその報告書を提出し、子どもの保護を求めるアドボカシーを行うことを予定しています。

子どもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

# Tafteesh

Partnership with



Co-financed by



期間

①2016年6月～2019年8月  
②2019年9月～2022年8月

事業費

①1億872万円(1ドル=110円)  
②1億5570万円(1ドル=109円)

2019年度支出実績

①2040万円  
②2080万円



Tafteeshの学びが他州のサバイバーの被害者補償も可能に。

タフティッシュ事業は、2013年より、被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるよう、刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組んでいます。2019年は特に、被害者補償と、人身売買取締警察(AHTU: Anti Human Trafficking Unit)による人身売買犯罪の捜査に注力しました。被害者補償申請数は、前年の34件から49件へと増加し、18人に補償が認められました。しかし、申請通りの補償金額を獲得できたのは2人にすぎず、16人は控訴中です。被害者補償の獲得件数を増やし、補償金額が低い場合は、継続的にサバイバー自身が控訴することにより、人身売買被害者に対する被害者補償システムを適切に運用するよう圧力をかけています。人身売買犯罪の捜査に関しては、同犯罪の捜査権限を持たない地元警察が事件を担当していたことに対し、パートナー団体が働きかけを行いました。これにより、16件中10件において、AHTUへの捜査命令が出され、州をまたぐ捜査が可能となったことから、AHTUが西ベンガル州からマハラシュトラ州までサバイバーを連れて捜査に行く事例が見られ始めました。一方、被害者の出身地におけるトラフィッカー(女性たちをだまして売春宿に売る者)の逮捕と有罪判決については目立った成果はみられませんでした。しかし、西ベンガル州とアンドラプラデシュ州における過去10年間のトラフィッカーの分析調査を実施し、捜査対象となった429人のトラフィッカーのうち、有罪判決が出たのは3人のみで、その刑罰はわずか5年から7年の懲役であったこと、また、10人が無罪となり、68人が保釈金を払い保釈されていることがわかりました。人身売買を撲滅する各種取り組みが国、国際機関、地元NGOで行われてきているにも関わらず、加害者を取り締まる仕組みが依然として脆弱であることがうかがえます。

人身売買撲滅のための政府諸機関・NGO連携促進モデル

# Coordination Model Development

Partnership with



期間

2018年7月～2020年3月

事業費

914万円(1ルピー=1.6円)

2019年度支出実績

462万円

2015年からマハラシュトラ州ナグプールにおいて、人身売買被害者に関わる政府諸機関で構成されるグループを立ち上げ、参加機関が各々の責務を果たすことで人身売買犯罪の有罪判決率をあげ、同犯罪をなくすことを目標に活動してきました。2019年は事務局機能をSTCIからDLSA(法的支援機関)へ移管し、持続可能性の向上に取り組みしました。また、23件の人身売買犯罪が裁判となり、6件で有罪判決が出ています。特筆すべきは、未成年のペディア\*の被害者の証言により、長期に渡りペディアの子どもたちを売ってきたトラフィッカーが逮捕、有罪となったことです。これらの取り組みは、オランダで開催された国際会議で、正義のためのコレクティブ・インパクト戦略という革新性が評価されました。STCIとかものはしは今後、慣習的に子どもたちが性産業に売られるカーストを対象とした事業を展開すべく、リーダーシップ育成と人身売買抑止の相関に着目した事業設計をするための調査、話し合いを継続しています。

\*ペディア:イギリス植民地時代の1871年「犯罪部族法」が制定され、コミュニティ全体が犯罪部族として指定された。ペディアはそのうちの一つで、代々世襲的に女児の人身売買が行われているグループ

エコシステムマッピング調査

# Landscape Study of Human Trafficking in India

委託先

Sattva Consulting他

期間

①2019年11月～2020年7月  
②2020年1月～2020年3月

事業費

①413万円(1ルピー=1.5円)  
②47万円(1ルピー=1.5円)

2019年度支出実績

①318万円  
②47万円

人身売買のエコシステム(生態系)を把握するため、2019年度2つの調査を実施しました。ひとつは、インド全土で反人身売買の取り組みをしているNGOの事業内容とリーダーシップの傾向調査、もうひとつは、マハラシュトラ州の赤線地帯で、性産業を取り巻く実態調査です。16州59団体が人身売買に対して行っている事業は、予防・政策提言の活動が最も多く、捜査裁判分野の活動は少ないことがわかりました。裁判、州をまたぐリハビリ事業を強化すること、またコミュニティの声をベースとした事業立案が提案されました。リーダーシップ調査からは以下の「仮説」がこのセクターのリーダーシップ傾向として報告されました。

- ①個々人の変容については取り組む意欲が見られる一方、組織やシステムの問題に取り組む意欲が見られない
- ②組織への帰属意識が高く、自己と組織を同一視し、両者の境界線はあいまいである
- ③被害者へは共感より同情が強く、被害者のもつ本来の力を過小評価する傾向がある
- ④加害者の被害者性を認めることは難しく、加害者も人間であることを見るのが難しい

これらに基づき、リーダーシップ育成にはスキル向上だけでなく、「視野」を深める取り組みが提案されました。

私たちは2019年から日本で事業を開始した。私たちが生まれ育ったこの国においても活動したいと強く思ったからだ。

虐待から逃げるために家を飛び出し、身体を売りながら生きのびた中学生。社会から受け入れられず職場を転々としながら家庭では虐待をする父親。子どもに対する虐待、いじめ、自殺、貧困。当事者である人たちは、「加害者」であれ「被害者」であれ必死に生きようとしている。政府、福祉法人、企業、NPO、地域の人たちは必死に悲劇を食い止めようと努力している。皆が必死に頑張っているにもかかわらず、傷つき癒されない心、失われていく声がある。21世紀の現代社会にありながら、社会構造の中で起きる不条理に深い悲しみ、強い憤り、そして無力感を感じた。

それと同時に、「子どもたちを守りたい」「不条理と暴力をなくしたい」と考え行動している人に官民問わず多く出会った。それがこの社会がもつ底力だと私は感じた。

具体的には日本の各地で「子ども」の貧困、「児童虐待」等をテーマにし各地域で活動している複数の団体やNPO法人ELLIC等とともに各地域の協働を促す活動を開始した。各地域で活動している諸機関・リーダー・当事者たちがよりよい連携と活動をできるように資金面・技術面での支援を行う。また、当事者の声を社会に反映させるための取組みを計画している。

具体的には日本の各地で「子ども」の貧困、「児童虐待」等をテーマにし各地域で活動している複数の団体やNPO法人ELLIC等とともに各地域の協働を促す活動を開始した。各地域で活動している諸機関・リーダー・当事者たちがよりよい連携と活動をできるように資金面・技術面での支援を行う。また、当事者の声を社会に反映させるための取組みを計画している。

Written by

かものはしプロジェクト  
共同創業者



**本木 恵介**

Kaisu Motoki

東京大学3年生のときに共同創業者の村田と青木と出会い、2002年にかものはしプロジェクトを設立。2006年からカンボジア事業、2012年からはインド事業、2020年からは日本事業と軸足を移してきた。

カンボジア、インド、そして

日本でも。

Kamonohashi in

JAPAN

2019-2020

2019年度の日本事業部

## ミッションの変更について

皆さまにお詫びしなければならないことがあります。日本事業は、厳密に言えば現在のミッション(子どもが売られない世界をつくる)の範囲にはおさまりません。

日本事業は2019年度の理事会・総会にて以下の了承を得て活動を開始しました。

- ① 新しいミッションを2020年6月総会にて決定する。
- ② それまでは「試行する期間」としてスタートする。

しかし、①について実現できませんでした。この経緯や背景、また学びを説明することが責任だと考え、以下に共有します。

ミッションに関する対話は、スタッフやサポーターの皆さまと回を重ねて行ってきました。そこで話し合っていたのは、私たちが何を成し遂げたいのだろうか、一方で社会に求められる役割は何か、自分たちの強み・良さはなにか、といったことです。話し合う中で、異なる意見・考え方があり、それらを高い次元で統合し、皆が共有する言葉にすることができませんでした。

難しかった理由の一つは「子どもが売られない世界をつくる」というミッションが太陽のように光を照らし経営を導いてきてくれたことです。逆に言えば、このミッションに長期間依存しており、組織として考えを深めていくことが難しかったと感じています。また、コロナ感染拡大に伴う混乱の中で十分な時間をとれなかったということもあります。

妥協して決めるという選択もありました。しかし、私たちは、時間をとって、異なる価値観を紐解き、ゆっくりと言葉としていくことを選択しました。

異なる価値観を持つ人同士が分断するのではなく「ともに生きる」ということを社会において実現しようとしています。人は生きるために、他者を傷つけ、搾取してしまうことがあります。私もそうしてしまうことがあります。それが極まったとき、人は人を売り買いすることもある。そうしなくてすむ社会をつくらうとしているのであれば、組織内においても、小さな違和感も大切に、より深く理解し合い、そこから言葉を紡ぎだしたいと考え、粘ることを決めました。

早ければ2020年秋、もしくは2021年6月、総会を開催し決定することを目指します。(そのときには対面で開催できるとよいなと思っています)。インド事業はこれまで通り、また日本事業は、引き続き「試行する期間」として活動してまいります。

かものはしプロジェクト共同創業者

本木 恵介

### 日本事務局

たくさんの方のご支援が、活動の大きな力になっています。

#### 2019年度

支援者の皆さまとのコミュニケーションが深まり、力をいただきました

2019年度は資金調達額が3億7千4百万円となりました。目標としていた資金調達額を達成することができ、計画通りインド事業の活動と日本での事業展開にむけての調査と実験的な活動を前に進めることができました。

サポーター会員が昨年1万人を超え、1万2千人(2020年3月末時点)となりました。1万2千人の人が、かものはしの活動を応援し、支えてくださっていることは、私たちの活動への自信と力になっています。ずっと支えてくださっている方、新しく仲間にな

なってくださった方、本当にありがとうございます。

直接お会いしたのではない会員の方も増えてきたことで、私たちの活動に関する発信は一方通行ではないだろうか?もっと支援者の方の思いや声を知りたいと思い、2019年度は「かものはしダイアログ」という参加者の皆さんとの対話の会や、かものはしについての個別インタビューを実施しました。

2019年度は、日本での事業展開の準備を悩みながら進めていた1年であったこともあり、この対話の機会はとても重要でした。対話を通じて、あたたかく背中を押してくださるようなポジティブな反応をいただきとても励みされたり、あるいは真摯に心配する意見を頂戴して考えたり、皆さまの

声に支えられていることを実感できました。

また、東京マラソン2020チャリティにおいては、117人の国内外のランナーがかものはしの活動に共感し、大会を目指して準備を続けてくださいました。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、大会本番にチャ



東京マラソン2020チャリティ かものはしのチャリティランナーの皆さまと。なお東京マラソン2019チャリティの寄付金は2019年度のインド事業運営に充てられました。

#### 2020年度

新型コロナウイルスの影響に負けず、事業を支えるための資金調達に励みます

2020年度、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、当初の計画から大きく変更せざるを得ない状況となりました。資金調達に関しては、企業寄付の減少やチャリティマラソン収入が見込めないなど、厳しい状況が見えてきています。

インドでは新型コロナウイルス感



# Kamonohashi Dialogue

## かものはし ダイアログ

支援者の皆さまと対話する場、「かものはしダイアログ」をはじめました。ご参加いただいた3名の声をご紹介します！

2020年度もダイアログを開催予定です。メールマガジンにてご案内させていただきますので、ぜひご登録いただき、ご参加いただければ幸いです。



### さまざまな「想い」が集う「場」

「周りの人で3～4人のグループを作って話し合ってみてください」(え、マジか？ちょっと面倒だな…)初めてかものはしダイアログに参加したときは、年齢もバックグラウンドも違う見ず知らずの人と早々に簡単に話せるものかと少し心配になる。しかし、「仲間」と共有する様々な「想い」はそんな心配を跳ね飛ばす。「ああ、そういう想いで参加されているんだ」「かものはしにこんなことを期待しているんだ」…。さっきまで「他人」だったはずの人が実は繋がっていたことを発見する。そういう多くの人の「想い」が重なって「何か」が実現していく。自分の「想い」にしたがって足を運んだイベントには多くの見知らぬ「想い」が集まっていた。その「想い」のかたまりがかものはしで日夜頑張っているスタッフの皆さんの「想い」を通じて、世界の「仲間」に運ばれていく。そんな想いを抱きながらいつも清々しい気持ちで会場を後にする。

正会員  
佐々木 剛さん  
第1回・第4回ダイアログ参加

### 暗闇の中でもつ希望

児童虐待の解決は、まるで重い鉄の扉を開けるような難しさが伴うように感じました。ただ、印象的だったのは、私に伝えてくれた、かものはしが掲げる希望でした。その希望は、仮説としながらも、私たち人間は、本当は「癒す」力をもっているのではないか、というものでした。その力は被害者のみならず加害者にもあり、私たちが心の奥にある痛みを誰かに話すことができ、これまでの自分を受け入れられたり、その自分を「癒す」ことができるなら、児童虐待という負の連鎖を断ち切れるのかもしれないというものです。このメッセージを聞いた時、心が震えました。私たちがこうした希望を強く心にもった時、その希望は他の人にも連鎖し、どんなに重い鉄の扉でもゆっくりと開けることができるのではないかと感じたからです。私自身も「癒す」力は誰もがもつ権利なのではないかという視点から、児童虐待という問題を見つめていこうと改めて決意しました。

マンスリーサポーター  
関 京子さん  
第4回ダイアログ参加

### かものはしに浸るひととき

かものはしダイアログは対話を通して心があたたまるイベントでした。かものはしプロジェクトのインドでの近況について知ることもできましたが、他のイベントと明らかに違うのは参加者が自分について考える、伝える、聴くという時間が多かったことです。「なぜかものはしに関わろうと思ったの?」「かものはしの活動を通して何を実現したい?」などかものはしの思い出を振り返る時間、隣の席になった仲間の声に耳を傾ける時間。それぞれが内に秘めているかものはしのあたたかいストーリーに浸ることができました。普段は少し距離が遠くて、一方通行な関係を意識しがちですが、このイベントに参加し、かものはしの周りにはたくさんのサポーター＝仲間がいる。同じ夢を追う仲間に出会い、心がとてもあたたまりました。これからも、かものはしのファンとして、仲間として応援していきたい、そう感じるような素敵な時間でした。

元インターン  
青山 洗花さん  
第2回ダイアログ参加

染拡大による影響に加え、5月に事業地を大型サイクロンが通過したことによる影響がでてきており、資金ニーズが高まってきています。皆さまから心配のお声をいただいております、かものはしとしてもインド現地の状況、サバイバーや関係者の状況をいち早くお伝えしたいと思っております。緊急レポートを公開させていただきます。レポートをご覧になり、応援メッセージ、ご支援ください。

さった皆さまに心から感謝申し上げます。皆さまにお約束したインドでの2024年の問題解決をあきらめたくない。その一心でインド事業の推進とその下支えとなる資金調達を続けてまいります。2020年度は引き続き、支援者の皆さまとのコミュニケーションを深めてまいります。当初、対面でのダイアログの機会

をより増やすことを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、対面でのイベントを控えてのスタートとなりました。一方で、オンラインでのイベント開催のおかげで遠方からの参加者が増え、その結果、寄付者限定イベントなどに非常に多くのお申込みをいただいております、新しい出会いに感

謝しています。会を重ね、オンラインイベントでもさまざまな挑戦をしていきたいと考えております。また、情報発信も引き続き注力してまいります。WEBサイト、メール配信やSNSを通じて、インドで起きていること、かものはしの取り組み、私たちの思いなどを発信しておりますので、ご覧いただけたら幸いです。

SALASUSU、かものはしから自立して2年。

# ものづくり・ひとつづくりの活動が広がり、チャレンジが花開き始めた1年

まさにこれから、という時に訪れた危機

2019年度は、多くの挑戦に溢れた1年だった。カンボジアの農村で、ものづくりを通じて自立的に生きる女性を育てることを目指すSALASUSUの工房。この1年は女性たちが工房を卒業し、新しい就職先に羽ばたいていくためのサポートをより強化してきた。日々の生活に精一杯だった女性たちが、読めない先の未来に向けて行動することは想像以上に勇気がいる。多様な生き方を知るた



市内のレストランで活躍する卒業生と担当スタッフ。街や村、多様な選択肢の中から進む道を自分で選びとれるよう、粘り強く対話を続けていく。

めの就職先訪問や町探検、卒業生インタビュールに加え、活動の中でつまずきや勇気を出した経験を糧にできるよう、振り返りや個

別の対話に力を入れ、サポートしてきた。

日本では、販売が思うように伸びず苦戦しながらも、第一線で活躍する世界的に有名なファッションデザイナーとの商品開発や、SALASUSUの価値観を伝える機関紙の発行などで、より深く広く成長する素地を築いた。

教育・販売の事業を支えるべく、組織本体の開発にも注力。マネジャー陣の育成強化はもちろん、対話に重点を置き心理的安心・安全を醸成することに務めた。団体発足以来初めての黒字化も目前となり、このチームでより

一層活動を加速できる、そんな期待と自信を感じていた。その矢先に訪れたのが、新型コロナウイルスだった。

## LIFE JOURNEY

### 危機の中で感じた強さと成長

カンボジアでは感染拡大は免れたが、観光業に頼っていたシエムリアップの街は壊滅。現地直営店や工房、オフィスも閉めざるをえず、売上は半分以上に激減。団体の存続すら危ぶまれた。

しかし、組織内で大きな混乱は起きなかった。ワークショップや社内ラジオの配信など、コミュニケーションを豊かにする努力を続けてきたおかげで、全員で不安



毎回笑いが絶えない全体ワークショップ。ゲームやワークを多く取り入れ、スタッフが主体的に参加できるよう心がけている。

や疑問を共有できた。マネジャーをはじめ一人一人がリーダーシップを発揮し「この状況で貢献できることは何か」と声を上げ続けてくれた。変化を受け入れ、オンラインツールを駆使して業務に取り組み姿勢はたくましかった。

作り手の女性たちは、工房が閉鎖し働けない中でも、この危機を乗り越えるため何ができるかを自ら考え、行動し始めた。「工房でたくさんのトレーニングを受けてきたから、きっと困難なことがあっても乗り越えられる。」そんな声を聞き、私たちが大切だと信じて取り組んできた教育には、本当に意味があったのだと確信を持つこともできた。

高校生を中心に約2千人を受け入れた工房訪問事業はオンラインに形を変え、ターゲットを日

本の企業に広げたリーダーシップ研修提供も加速している。商品のオンライン販売も少しずつ成長を始め、1年かけて培ってきたものが、この危機を乗り越える中でさらに花開こうとしている。

実際に2019年度は1千万近く収支が改善し、団体としての自立に大きく近づいた。しかし、存続のために事業を続けているわけではない。SALASUSUとしてどんなインパクトを生み、何を実現したいのか。この危機が、改めて実現したい世界について問いを投げかけてくれている。多くの支えによって、数え切れないチャレンジを重ねてこれたからこそ、苦しい環境でも前を向いて2年目を終えることができた。次の1年もこのチームで力強く乗り越えていけると信じている。

### Basic line up



LAPTOP CASE  
パソコンケース(Sサイズ)  
税込5,500円



WEEKEND POUCH  
ウィークエンドポーチ  
税込4,180円



CLUTTER-FREE POUCH  
スクエアポーチ  
税込4,180円

HOLIDAY TOTE  
ホリデイトート  
税込6,050円

### ONLINE STORE

salasusu オンライン 検索

http://shop.salasusu.com



### WEBSITE



### FACEBOOK



### INSTAGRAM



SALASUSU



BENHUR SANDALS  
レディースサンダル  
税込9,350円



アースリードアテイン株式会社 / アステリア株式会社 / アネス株式会社 / アルファサーティスリー株式会社 / 浦安ベイロータリークラブ / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社HRインスティテュート / FSX株式会社 / MS&ADゆにぞんスマイルクラブ / 有限会社エルジーエヌ セミナーズ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エルローズ / 株式会社関東ロジスティックス / 株式会社キッツ / キュービーグループ マッチングギフト「QPeace」 / 医療法人社団くろべクリニック 産婦人科 / 税理士法人古田土会計 / 株式会社木風 / 株式会社CUD / シックス センストラボ株式会社 / 株式会社ジョイメイト / 株式会社昭和イーティング / 住友生命保険相互会社 / 株式会社SEIKO / 世田谷聖母幼稚園 / 有限会社ソルゾ / 株式会社ダブルエーホールディングス / 有限会社中央会計情報サービス / 有限会社ディスパシオ / DO DASH JAPAN 株式会社 / 株式会社電巧社 / 東京お茶ノ水ロータリークラブ / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社永屋 / 日鉄エンジニアリング 株式会社 / 一般社団法人日本漢方薬膳協会 / 日本電算機販売株式会社 / ハウジングスカイ株式会社 / 一般社団法人PARACUP / 医療法人ひまわり会 / ヒロ電資株式会社 / 医療法人福智会 / 株式会社古木企画 / 株式会社プロミッション / ベイトータルサービスジャパン株式会社 / 三井化学株式会社 / 三井化学ちびっとワンコイン / 森屋建設株式会社 / 学校法人大和学園聖セシリア女子中学校・高等学校 / 株式会社リオ・トラスト / 株式会社ロサ 日本女性ヘルスケア協会運営部 / ワタベウェディング株式会社

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご支援をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しております。

技術協力 ※五十音順・敬称略

アドビシステムズ株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / HTBエナジー株式会社 / NPO法人 ETIC / MCリテールエナジー株式会社 / Crescendo / グローバルセンセーション / 株式会社コムニス / サイカンパニー / CRR Global Japan合同会社 / NPO法人CRファクトリー / システムアウェアネスコンサルティング / 株式会社 simpleshow Japan / Steinbach & Partner / 株式会社セールスフォース・ドットコム / ソフトバンク株式会社 / 株式会社Deep Harmony / 株式会社デファクトスタンダード / デロイトトーマツコンサルティング合同会社 / 株式会社dof / 株式会社バリューブックス / 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング / 一般社団法人無憂樹 / モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所 / ヤフー株式会社

2 年次報告書を紙からWEBに移行することを検討しています



以前から環境への配慮やいつでも読める利便性を考慮しWEBで作成することを検討しておりましたが、この度の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、この時期だからこそ情報を確実にお届けしたいと思い、今年は報告書を紙でお届けしました。来年からはWEBへの移行に挑戦していきたいと考えています。年次報告書の形態については、個別にインタビューの依頼もさせていただきます。そして、今年も年次報告書の感想をいただきたく、アンケートのご協力をお願いいたします。

年次報告書のアンケートにご協力ください

3 認定NPOとしての更新が東京都から認められました

かものはしは2014年4月1日に認定NPO法人を取得して活動を続けてまいりました。この度、5年目の更新を2019年7月9日に完了することができました。皆さまのご寄付は引き続き、税額控除の対象となりますので、ぜひ確定申告をご活用ください。

かものはしへの参加方法

イベント情報 オンラインで毎月イベントを開催しています。お気軽にご参加ください。

かものはし イベント 検索

<https://www.kamonohashi-project.net/event/>

ボランティア 社会人ボランティアコミュニティ「かもカフェ!」では随時メンバーを募集中!

かものはし ボランティア 検索

<https://www.kamonohashi-project.net/support/volunteer/>

WEB / SNS

ホームページ

かものはしプロジェクト

@kamonohashiprj

@kamonohashiprj

かものはしからのお知らせ

1 インド事業部緊急レポートをリリースしました



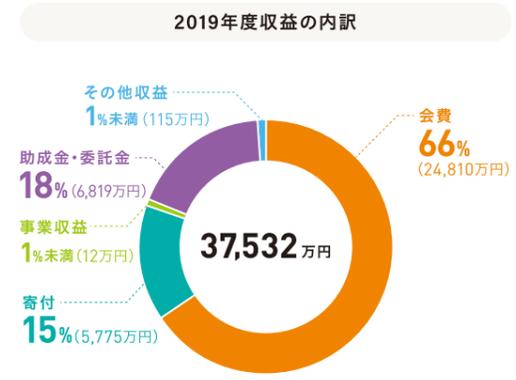
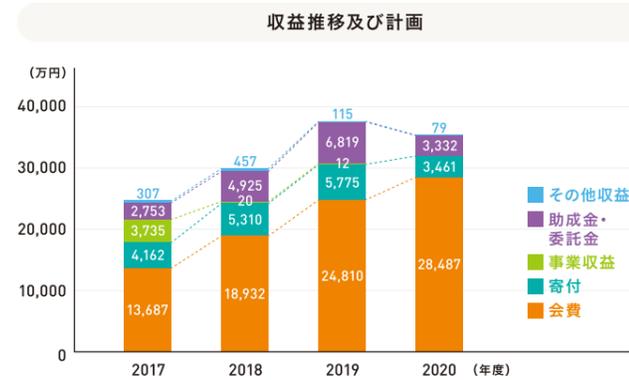
新型コロナウイルスの感染拡大とその後に発生した大型サイクロンの影響を受け、かものはしプロジェクトが活動しているインドでも非常に厳しい状況が続いています。サバイバーリーダーたち、かものはしとパートナー団体が今向き合っている実情を、インドからの緊急レポートとしてお届けするWEBページを2020年5月1日に公開いたしました。3月のインドの状況から、現在にいたるまでご報告を続けておりますのでぜひご覧いただければ幸いです。レポートのご感想・メッセージもページ内で受け付けております。

かものはし 緊急レポート 検索

<https://www.kamonohashi-project.net/cov19/>

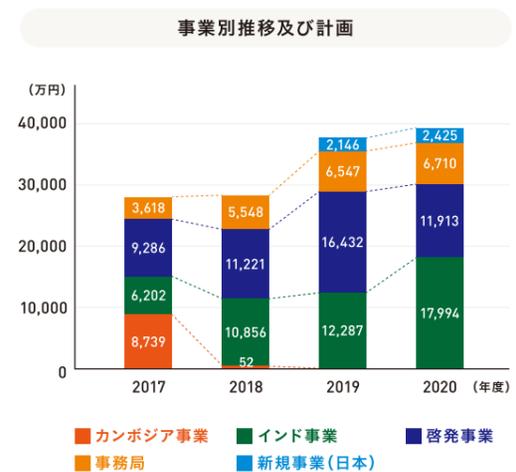
収益推移及び計画

2019年度の収益は、前年度比26%増の約3.8億円となり、引き続き、安定的かつ柔軟に事業活動を実施するための資金を確保することができました。財務基盤を支えている会員会費収入は、WEB施策による新規会員の継続的な増加により、前年度比30%増となりました。海外財団からの助成金は、スイスのOak財団との第一期契約が2019年8月に終了しましたが、翌9月からの第二期の契約が締結され、3ヶ年の助成が決定いたしました。これにより、イギリスのChildren's Investment Fund Foundation(CIFF)からの助成金とあわせ、19年度の助成金収入は伸長しています。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大、及びそれに伴う景気悪化の影響により、寄付収入の減少を見込んでいるほか、上述のCIFFからの助成金終了に伴い、助成金収入も減少に転じる予定です。そのため、引き続きWEB施策を積極的に実施し、会員会費を伸長させることにより、安定した財務基盤の維持に努め、不確実性が高い状況の中でも、ミッション達成に必要な事業を継続して推進していきます。



部門別費用推移及び計画

2019年度の費用は、インド事業の堅調な成長、日本における調査と試行的事業の開始、啓発事業でのWEB施策強化により、前年度比35%増となりました。インド事業費の予算使用率は7割を下回りましたが、その要因は、円高傾向の為替変動と、現地パートナー団体等と行う事業の性質上、状況に即した計画見直しを期中に行っているためです。2020年度は、収入減少が見込まれる中、問題解決に直結するインド事業への支出を最優先とします。他部門では各費用の必要性を慎重に見極めた上で、中長期的な成長に必要な組織開発や人材育成、会員獲得のためのWEB施策は、継続的な支出を予定しています。一方、新型コロナウイルスの影響により、収入や事業地の状況の変化が想定されるため、必要に応じ期中の予算計画変更を行いつつ、事業活動を実施してまいります。



会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っております。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。今年度(第16期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しております。

活動計算書

科目		16期(2019年4月1日~2020年3月31日)			17期(2020年4月1日~2021年3月31日)	
		当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)
経常収益	受取会費 正会員・賛助会員受取会費	234,743,000	248,100,700	106%	284,873,418	15%
	受取寄付金 受取寄付金	63,470,000	57,753,202	91%	34,610,000	-40%
	受取助成金等 助成金収入	101,319,227	68,188,768	67%	33,324,667	-51%
	受託事業収益 委託金収入	-	-	-	-	-
	事業収益 啓発事業収入	80,000	119,400	149%	-	-100%
	その他収益 雑収入等	777,600	1,153,235	148%	792,000	-31%
経常収益 計		<b>400,389,827</b>	<b>375,315,305</b>	<b>94%</b>	<b>353,600,085</b>	<b>-6%</b>
経常費用	インド事業	181,816,532	122,868,523	68%	179,938,227	46%
	啓発事業	137,883,819	164,316,200	119%	119,129,304	-27%
	新規事業	34,180,672	21,456,784	63%	24,246,294	13%
	事業費 計	<b>353,881,023</b>	<b>308,641,507</b>	<b>87%</b>	<b>323,313,825</b>	<b>5%</b>
	管理費 日本事務局	71,173,094	65,465,605	92%	67,096,221	2%
経常費用 計		<b>425,054,117</b>	<b>374,107,112</b>	<b>88%</b>	<b>390,410,046</b>	<b>4%</b>
当期経常増減額		-24,664,290	1,208,193		-36,809,961	
当期正味財産増減額		-24,664,290	1,208,193		-36,809,961	
前期繰越正味財産額		105,222,754	105,222,754		106,430,947	
次期繰越正味財産額		80,558,464	106,430,947		69,620,986	

貸借対照表(2020年3月31日現在)

科目		金額	科目		金額
資産の部	現金預金	117,670,093	負債の部	未払金	18,386,573
	未収金	23,084,347		未払法人税	70,000
	立替金	15,590		未払消費税	41,500
	前払費用	667,920		前受金	66,000
	流動資産 計	<b>141,437,950</b>		前受助成金	29,068,162
	長期未収入金	13,199,737	預り金	1,666,505	
	固定資産 (投資その他の資産)	1,092,000	流動負債 計	<b>49,298,740</b>	
	固定資産 計	<b>14,291,737</b>	負債の部 合計	<b>49,298,740</b>	
	資産の部 合計	<b>155,729,687</b>	正味財産の部	前期繰越正味財産額	105,222,754
				当期正味財産増減額	1,208,193
			正味財産の部 合計	<b>106,430,947</b>	
			負債及び正味財産の部 合計	<b>155,729,687</b>	

その他情報(参考)

2019年10月にOak財団と3年間のTafteesh事業の実施に関する契約を締結しました。2020年4月から2022年8月までに、Oak財団とかものはしプロジェクトが右記を拠出する予定です。

	1年次残高 (2020年4月~2020年8月)		2年次 (2020年9月~2021年8月)		3年次 (2021年9月~2022年8月)		合計	
	USD	円	USD	円	USD	円	USD	円
Oak財団	77,481.85	8,432,350	158,067.00	17,202,432	154,301.00	16,792,578	389,849.85	42,427,360
かものはしプロジェクト	159,128.40	17,317,944	337,942.00	36,778,228	339,627.00	36,961,606	836,697.40	91,057,778

※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2020年3月31日の為替相場(1US\$=108.83円、単位未満切捨て表示)で換算しています。

監事監査報告書

2020年6月10日  
認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 監事

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 本木 恵介 殿  
私たちは、2019年4月1日から2020年3月31日までの第16期の貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)について監査を行った結果、会計帳簿と一致し、法人の財産及び正味財産の増減の状況を正しく示していると認めます。

樋口 哲朗 (監事) 山本 龍太郎 (監事)

いつも応援ありがとうございます。  
かものはしのさらなる  
進化を期待してください!



樋口 哲朗

サポーターの皆さまの  
支えがかものはしの  
力の源泉です!



山本 龍太郎

かものはしとともに、思いやり、コ  
ミットメント、信念の素晴らしい  
旅をしてきました。私にとってかも  
のはしは、人生・学び・リーダー  
シップの場です。かものはしのす  
べてのメンバーとサポーターの皆  
さんのご多幸を祈ります!



Saroj Kumar  
Pattnaik  
かもインドチーム

いつもさまざまな形で  
ご協力をありがとうございます!



村田 早耶香

一人一人のご支援が本当に  
ありがたく、社会を変える力に  
なっています。



青木 健太

Roop Sen  
かもインドチーム



新型コロナウイルスの世界的な  
パンデミックの中で、かものはし  
は、これまで以上に、共感、連帯、  
思いやり、といった価値観と信  
念を強く持ち続け、責任あるリー  
ダーシップへのコミットメントを  
貫いています。尊敬しています!

皆さんとたくさん対話しながら、  
日本での事業も進めていきたいです。

五井 利明



これから皆さんと日本事業に  
邁進していきたいと思えます。

上村 宏樹



皆さまのご支援が形に  
なるように、事務局・理事一同  
力を尽くします。



伊藤 健

Snigdha Sen  
かもインドチーム



2019年は、人身売買サバイバーの権  
利を確保するための戦いが成功した  
年でした。これはかものはしチーム  
と、サポーターの皆さんなくしては、実  
現できなかったことです。ともに旅を  
することができて、誇りに思います。

活動報告イベントで  
毎月スピーチしています!  
ぜひご参加ください。



草薙 直基

# Thank you for your support!!

## from kamonohashi members

かものはしは、ポストコロナの世界で深  
刻な影響を受けたすべての人々を、金銭  
面、精神面の両方で支えています。手を差  
し伸べ、癒し続けていきましょう。

Snehasish Sarkar  
かもインドチーム



皆さまの支援・応援が  
力になっています。  
ありがとうございます。



本木 恵介

いつも背中を押してください  
ありがとうございます。  
日々の励みになっています。

野溝 明子



皆さまの声を感じながら、  
広報として何がお伝え  
できるのか考えています。



早瀬 真理絵

Uma Chatterjee  
かもインドチーム



かものはしは、不正義と奴隷制を終わらせようとする、  
私たちの声をリードし、声に耳を傾けてきました。また、  
それらの声とともに、そしてそれらの声から学んで  
きました。人類の歴史の中の深淵なこの時期を、私たち  
は、深い悲しみ、怒り、そしてパートナーやリーダーた  
ちとの揺るぎない連帯の中で過ごしています。

人のエネルギー、  
あたたかみを  
感じた1年でした!



樋山 真希子

皆さまのあたたかいコメントに  
いつも励まされています!



辻 桂子

小島 瑞代



数ある社会問題の中から  
かものはしを選んで  
いただき感謝しています。

Anustoop Bhattacharya  
かもインドチーム



継続的にご支援、応援くださり、そし  
てかものはしに信頼を寄せてくださ  
り、ありがとうございます。

様々な分析ツールの開発に全力を注いで  
います。これにより、かものはしが大切  
にしているニーズに対して、かものはしが  
いかに効果的に応えているかを、サポーター  
の皆さんにご理解いただけるのではと  
思っています。そして、それが、私たちが他  
の団体と異なっている点です。

Arijit Chowdhury  
かもインドチーム



皆さまお一人お一人のご支援に  
いつも勇気と元気をもらっています!



曾根原 怜子

緊急レポートにたくさんの  
あたたかなコメントを  
ありがとうございます。  
泣けちゃいます。

清水 友美



皆さまの想い、  
お気持ちを、  
しっかりとつなげて  
いきたいと思えます。



田口 陽子

皆さまの応援を励みに頑張ります!  
いつもありがとうございます!

和田 元



Manashi Naik  
かもインドチーム



ゆるぎない信念をもって、エンパワメント  
とリーダーシップ育成に取り組む、かものは  
しの粘り強さとコミットメントは、たくさんの  
称賛に値します。かものはしの旅そのもの  
が、ひとつの先例となり、豊かな学びを生み  
出しています!



この年次報告書は、サポートしてくださっている  
印刷会社さまのご協力により、  
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。  
長年、ご協力をいただいています。

今回は新型コロナウイルス感染拡大により  
非常に困難な時期での作成となりましたが、  
変わらずご協力を賜り、  
こうして皆さまに報告書を届けることができました。  
かものはしスタッフ一同、心から感謝いたします。



子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人 **かものはしプロジェクト**

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
Webサイト	https://www.kamonohashi-project.net

かものはしプロジェクト

検索



※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、  
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。  
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。